

# 謹賀新年

未来に向けた着実なまちづくりを  
皆さんとともに

## New Year's Message

新年あけましておめでと  
うございます。  
市民の皆さんには、平成29  
年の新春を穏やかに迎えの  
ことと心よりお慶び申し上げ  
ます。また、日頃から市政に對  
し、ご支援、ご協力を賜り、深  
く感謝申し上げます。  
昨年、岩手県で46年ぶり  
となる国体「希望郷いわて国  
体」と障がい者スポーツの祭典  
「希望郷いわて大会」が開催さ  
れました。天皇杯2位の成績  
を残した岩手県勢。一関出身  
の選手の活躍により多くの感  
動を与えてくれた大会となり、  
市民の皆さんには競技の観戦  
はもちろん、「笑顔あふれる  
おもてなし」で大会を盛り上げ  
ていただきました。

また、昨年11月には、一関も  
ち食推進会議が申請した、地  
域の食を核として訪日外国人  
を中心とした観光客の誘致の  
モデル地域「食と農の景勝地」  
として本市と平泉町が国から  
認定されました。さらに照井  
土地改良区が管理する照井堰  
用水が歴史的・技術的・社会

的価値のあるかんがい施設と  
して「世界かんがい施設遺産」  
に登録され、どちらも市の情報  
発信の大きな柱となりました。  
さて、東日本大震災発生か  
ら6回目の正月を迎えました。  
市では、東京電力福島第一原子  
力発電所事故に伴う放射性物  
質の汚染対策、農林業系汚染  
廃棄物の処理、道路側溝に堆  
積した土砂の処理など、残念  
ながら解決に至っていないも  
のがあり、今後も最優先課題  
として取り組んでまいります。

また、陸前高田市、宮城県  
気仙沼市には震災直後から継  
続して職員を派遣しています。  
昨年8月に発生した台風10号  
で甚大な被害を受けた宮古市、  
久慈市、岩泉町へ職員派遣や公  
用車の提供などの支援を行っ  
てきました。被災地の皆さんが  
一日も早く真の復興を感じら  
れる日がくるよう、今後も応  
援していきたいと思っております。

昨年10月に「一関市バイオマ  
ス産業都市構想」が、岩手県で  
は初めてバイオマス産業都市  
として国の選定を受けました。

この構想に基づき、地域に存在  
するバイオマスを原料として、  
収集・運搬・製造・利用までの  
一貫したシステムを構築し、地  
域のバイオマスを活用した産  
業の創出とエネルギーの地域  
内での循環を強化することに  
より地域の特色を活かしたバ  
イオマス産業を軸としたまち  
づくりを目指して行きたいと  
思います。

協働のまちづくりについて  
は、昨年4月から藤沢市民セン  
ターの地域協働体による指定  
管理が始まりました。本年か  
ら新たに指定管理が始まる市  
民センターもあり、地域の特性  
を生かした協働のまちづくり  
を進めてまいります。

また、少子高齢化や人口減少  
などの社会構造の変化に対応  
するため、隣接する宮城県栗原  
市、登米市、平泉町との連携を  
スタートさせました。このエリ  
アは、同じ通勤・  
通学圏、同じ医療  
圏にあります。

今後とも同じ  
課題を抱える地  
域同士が県境を  
意識せずに連携  
し、共に発展する

### 勝部修市長年頭あいさつ

よう取り組んでまいります。  
国際リニアコライダー（I-L  
C）の誘致については、国の誘  
致判断が29年度と見込まれて  
います。私は、I-LCプロジェクトを  
一関発展の基軸として位置  
づけ、次代を担う子供たちが夢  
と希望と誇りを持ち活躍でき  
る地域となるよう、将来を見据  
え、ふるさと一関発展のための  
取り組みを進めてまいります。

「世界の国々から親しみを持  
たれるまち」「世界の国々から  
信頼されるまち」  
そのようなまち、一関を目指  
して取り組んでまいります。

本年が皆さんにとって、幸多  
き年になりますことを心から  
祈念するとともに、総合計画  
に掲げる各種施策を市民の皆  
さんと着実に進めてまいりた  
いと思っております。本  
年もよろしくお  
願いいたします。

## いな人 File\_43 いちのせきを愛する人

県の卓越技能者表彰を受賞した染め物職人

### 伊藤 佳伸さん

Ito Yoshinobu 75 川崎町薄衣



### 生涯勉強、一生修行 染め物の道に完成なし

佳伸さんは、1935年操業の染め物工場  
の2代目。漁船を飾る大漁旗などを製作し  
ています。その高い技術を聞きつけ、全国  
各地から注文が殺到しています。

市内の高校を卒業した佳伸さんは、バス  
会社の事務職員として7年間勤務。家業の  
染め物工場を継ぐかどうかを1年悩み、25  
歳で職人の道を選択しました。

漁船を飾る大漁旗は、文字と絵をフリー  
ハンドで描きます。しかし、佳伸さんは絵  
を描いたり、字を書いたりすることは大の  
苦手。うまく描けたと思っても、先代の父・  
銀蔵さんからは厳しい叱責。「男泣きした  
こともあった」と振り返ります。

「どうすればうまくなるのだろう」。  
佳伸さんは習字の教室に通ったり、納  
得がいくまで絵を描いたり、日々の努力  
を惜しみませんでした。修行を重ねて  
15年。40歳のとき、ようやく父から「よ  
くやった」と認められました。

現在は、佳伸さんが下絵を描き、長男  
の康太さん(45)が色を付ける分業制で製  
作しています。旗作りは、まず大きさと図  
柄を決めて下絵を描画。次に、色が混じら  
ないように、絵や文字の縁に糊を塗る「糊引  
き」を行います。この糊引きは、天気や湿度  
に左右される繊細な作業。「一番神経を  
使う」と語ります。その後、「色付け」「乾燥」  
「洗い」の工程を経て完成となります。パ  
ソコンを使って下絵を描く職人も多い中  
「手書きには味がある」と、手作りにこだ

わっています。

漁業関係者からは「旗や」と呼ばれ、親  
しまれてきた佳伸さん。東日本大震災で  
被災した沿岸の自治体や魚市場を目の当  
たりにして心を痛めました。そこで「が  
んばれ大槌丸」「がんばれ気仙沼丸」などの  
励ましのメッセージを込めた大漁旗を寄  
贈。互いに絆を深め合いました。

「染め物の仕事には完成がない。生涯勉  
強、一生修行。これからも伝統を守って  
いきたい」と決意を新たにしました。

#### Profile

1941年川崎町生まれ。高  
校では野球に打ち込み、  
県選抜選手に選ばれた  
ことも。高校を卒業後、  
バス会社に就職。25歳  
で染め物職人に。フリー  
ハンドで下絵を描く技術  
は全国的にも貴重。昨年  
11月に「平成28年度岩  
手県卓越技能者」として  
表彰を受ける。妻、長男  
夫婦、孫3人の7人家族

「本物を知り、本物に触れ、本物を着る」  
新春新作ご婚礼衣裳展示会  
**「七彩美婚」**  
ブライダルサロン七福人にて  
10:00~18:30  
[新年は3日から営業しております]

本年もブライダルサロン七福人をよろしくお願ひ申し上げます

“成人式準備、何からしたらいいの?”  
何でもお気軽にご相談ください  
**新作振袖ご予約承り中!**

購入 レンタル ママ振 フォト成人 男紋付

**ブライダルサロン七福人 ☎0120-188-500** 〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字慶徳44-1  
営業時間/10:00~18:30 [水曜定休]